



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 194
May
2009

トピックス

関係機関との防災協力推進

衛星画像データの防災利用事業について②

元客員研究員からのお便り

アルン・ピンタ元研究員(タイ)

ADRCスタッフ紹介 No. 35

茨木徹雄主任研究員

国際会議への参加

「第2回中央アジア災害予防・対応地域センター設立に関する協議」への参加

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

●関係機関との防災協力推進 衛星画像データの防災利用事業について②

アジア防災センター(ADRC)は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と協力し、衛星画像データを活用した防災事業をアジア地域において推進しています。ADRCハイライト193号(<http://www.adrc.asia/highlights/NewsNo193.jp>)に引き続き、その取り組みについてお伝えします。

1. フォローアップ調査

2006年10月からセンチネルアジアの運用がスタートし、緊急観測が実施され、観測結果は画像データとして提供されています。

提供したデータの利用状況についてはアンケート形式で調査してきましたが、アンケート調査のみでは、詳細な利用状況の把握は不十分であるため、緊急観測のリクエストがあった国に出向き、直接担当者に提供データの利用状況の聞き取りを行いました。2008年度は、ラオス、ネパール、ベトナムで調査を実施しました。



[ネパールでのフォローアップ調査の様子]

聞き取り調査を実施した機関は、リモートセンシング*及び防災の専門的な機関であり、防災利用目的で衛星画像を加工する技術を持っている機関ですが、防災機関との連携が不十分な国もありました。議論の中では、防災分野での衛星画像利用に関するノウハウが十分でないとの発言があったことから、衛星画像の防災利用の事例を整理し、センチネルアジアメンバーに提供することも検討の余地があると思われます。

また、各機関の本部と地方事務所との技術の格差が大きいことが判明した国もあり、衛星画像の有効利用のためには、地方事務所レベルでの人材育成も必要です。このような国に対しては、地方事務所が必要な人材が確保できるまでは、地方事務所の技術者がすぐに利用できるように画像を加工したうえでデータを提供することも重要です。

*リモートセンシング(Remote Sensing)とは、地形や地物、物体などの情報を遠隔から取得する手段である。一般には、人工衛星や航空機などから地表を観測する技術を指すことが多い。飛行機、ヘリコプター、人工衛星などから写真、レーザー、レーダーなどが使われる。

2. 2009年度の取り組み

2008年度に実施したフォローアップ調査では、3カ国のみで調査を实

続き

施しましたが、調査実施各国での利用状況と今後の利用促進のための課題も確認できました。2009年度も、緊急観測のリクエストがあった国に対して利用状況を調査し、調査結果を踏まえた防災分野への衛星画像の利用促進に向けた取り組みを実施していきます。

●元客員研究員からのお便り

アルン・ピンタ元研究員（タイ）

私は2007年1月から6月まで、客員研究員としてADRCに滞在しました。滞在期間中、「静岡県の経験から学んだ地震防災計画」をテーマに研究するとともに、タイにおける過去の災害に関する情報収集も行いました。また、研究活動以外に多くの活動に参加する機会がありました。その中の一つに、JICA防災行政管理者セミナーがあります。45日間のトレーニングで、世界中の防災関係者を対象にして実施されました。この充実したトレーニングに運よく参加でき、洪水、火山、地震、津波、地滑り等の災害や防災に関する様々な知識について多く学ぶことができました。

2007年6月末にタイへ帰国し、ADRCで得た知識や経験を大いに活用する機会が到来しました。まず、帰国後のレポートを私の所属する内務省防災局研究・国際協力部（DDPM）に提出し、それが所内で回覧され、DDPMのホームページに学術的な参考資料として掲載されました。また、これまでに数回、地震や津波、そして災害による構造物の崩壊などの分野に興味のあるDDPMの職員に対し、講義や発表を行いました。タイにおける過去の災害に関する研究では、私の同僚の研究における参考資料として利用されました。

ADRCのような国際的な機関で勤務し、様々な国の人たちと一緒に働いた経験は、DDPMが2008年に開催支援した東南アジア諸国連合（ASEAN）関連のイベント（ASEAN災害緊急対応演習やASEAN防災の日）に生かすことができました。

さらに、ADRCで勤務した経験は人的ネットワークを拡大するといった意味において大変有益でした。日本では、大学の教授から学生まで様々な人々と知り合うことができました。また、タイの隣国であるカンボジア、ラオス、ミャンマーといった国からの元ADRC客員研究員の多くは、ASEAN地域における防災協力の中心的役割を担っており、元客員研究員のネットワークからの恩恵を受けることができます。

私は、現在もDDPMの研究・国際協力部で勤務しています。計画・政策担当官として、ASEAN、ADRC、ASEAN地域フォーラム（ARF）、アジア太平洋経済協力（APEC）といった枠組におけるDDPMでの国際業務の調整および支援を行っています。ADRCとは、2009年5月から2010年12月にかけて、「ASEAN地方行政官能力強化プロジェクト」を実施する予定です。今後ともADRCの活動を積極的に支援していきたいと思っています。



●ADRCスタッフ紹介 No. 35

茨木 徹雄 主任研究員

本年4月に兵庫県よりアジア防災研究センターに主任研究員として派遣されました茨木徹雄

続き

と申します。

兵庫県に入庁以来、主に治水事業の分野の部署に配属され、治水事業計画策定、治水事業実施に従事してきました。事業計画の策定に当たっては、河川改修などのハード対策だけでなく、減災という観点から水防活動などの内容も含めたものを求められるため、関係住民等からなる委員会を組織し、水防活動について議論した経験もあります。

また、土木事務所勤務時、台風などの大雨の時には、水防活動の一環として関係機関への河川水位などの情報伝達や河川パトロールなどにも従事しました。

水防というのは、防災という広い分野の一部ではありますが、これまでの経験を生かし、ADRCの活動に貢献できるようがんばります。



●国際会議への参加

「第2回中央アジア災害予防・対応地域センター設立に関する協議」への参加

ADRCは、カザフスタン政府と国連人道問題調整事務所（UN/OCHA）が2009年4月15～16日に開催した「第2回中央アジア災害予防・対応地域センター設立に関する協議」に参加しました。

会議では、カザフスタン、キルギス、タジキスタン政府の代表者を含む参加者が、これまでに中央アジアで防災に関する相互協力をすすめるために開催してきた会合を通して合意した地域センターの設立に関する具体的な条件や定義などについて協議しました。

参加各国代表は熱心に協議に参加し、センターの設立に関する文書の条項ひとつひとつについて合意が得られるまで検討が行われました。

また、センターの名称は、センターが防災についても重要な役割を果たすことが期待されることから「中央アジア地域防災センター（Central Asia Coordination Centre on Disaster Response and Risk Reduction）」とすることとなりました。

ADRCは、中央アジア各国や国連機関と協力し、本プロセスを引き続き支援していきたいと思っています。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。